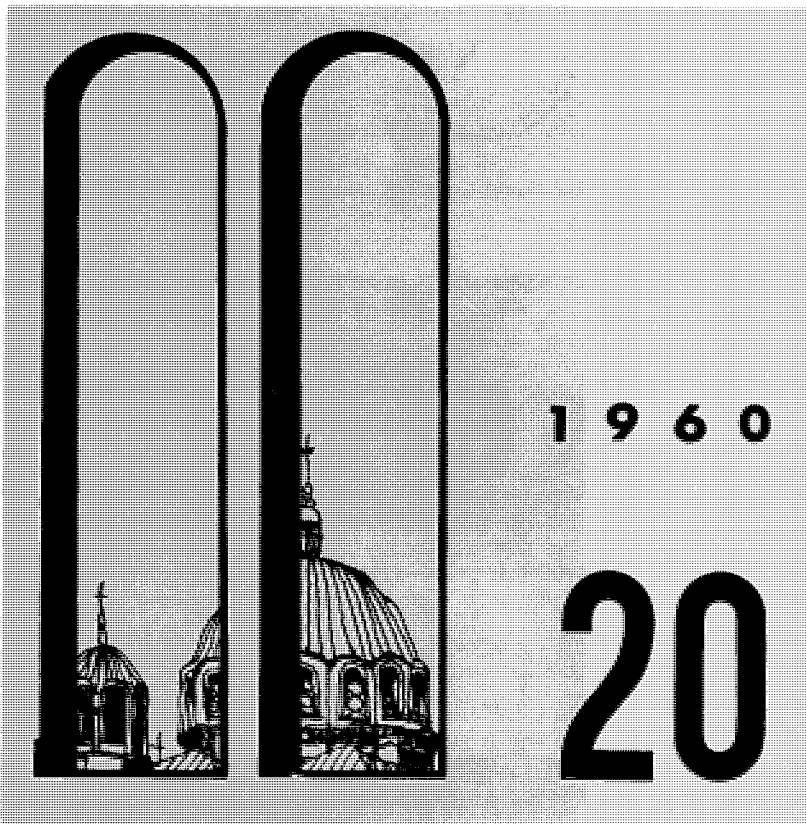


桜 工



日本大学工科校友会

桜工

1960

VOL. 5 No. 20

日本大学工科校友会誌

目次

会則	1
目次	2
新たに理工学徒になられた諸君へ	日大工科校友会会長 柴田 衛 3
薬学科の薬草園だより	日大教授薬学博士 木村雄四郎 4
欧米自動車界視察雑感	小糸電機専務 柴田 衛 6
注目されつゝある「鈴木雅次」研究室の研究活動	亀井幸一郎 10
日本大学薬学科薬用植物園概況	23

随筆

動物園ひとり或る記	Mech N. A. T 11
コーヒーよりも今川焼の頃	<small>東京都立小金井工業高校教諭</small> 専電 26 年 学電 31 年 鷺見 篤 12
遠山繁先輩の急逝を悼む	理事 伊藤真治 13
学内ニュース	14

昭和34年度卒業式 工科系大学生連盟について
学内ニュース

スポーツ	30
会員消息	24
くるみ会 (日立製作所茨城地区同窓会) 便り	
近畿における校友の活躍	あきとし会
第4回山形支部総会	パリー便り
三菱金属在勤校友	
執筆者の紹介	32
桜門建築会便り	32

桜工 第19号

昭和35年4月25日印刷
昭和35年5月1日発行

発行人 高木政司
編集人 藤田実

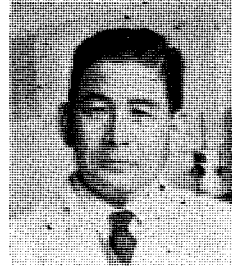
東京都新宿区市谷加賀町一ノ十二
印刷所 大日本印刷株式会社

東京都千代田区神田駿河台一ノ八
発行所 日本大学工科校友会
電話東京 (291) 3351 (206)
振替口座 東京 162710 番

編集委員

委員長	筒井助幸	委員	木下茂徳
委員幹事	亀井幸次郎	委員	大鳥芳郎
委員	伊藤真治	委員	伊藤清和
委員	大内順	委員	伊藤舜介
委員	宮川育郎		

薬学科の薬草園だより



日本大学教授
薬学博士

木村雄四郎

「目に青葉山ほととぎす初かつを」の名句を思うきょうこの頃、会員の皆さんの御家庭でも郊外遠くピクニックや、ハイキングに楽しい計画が進められていることと思ふ。

そこで私は皆さんのこのような機会に津田沼校舎の薬学科薬草園に御案内したい。

折柄薬草園では色とりどりの薬草が咲き乱れてふくよかな薬香をただよわせ皆さんのお出をお待ちしている。

薬草園は敷地こそ 6000m² に過ぎないが内外の薬用植物千数百種を集めて整然と管理され薬学教育と研究の面に大きな寄与をしているが昨春は谷津遊園で開催された日本植物園協会総会の出席者をこの薬草園に迎えて多数の専門家の賞讃を浴びたものである。

総武線津田沼駅からバスで9分、大久保に下車すると日本大学津田沼校舎の正門がある。正門脇の事務所に名刺を通ずれば薬草園への連絡がとれる。

芝生を敷きつめた青畳の中に点在する校舎を左右にみながら中央の通路を奥へ進むとやがて薬草園が展開され、アケビやビナンカズラの絡む生垣の中にひとときわ鮮

やかに日本大学理工学部薬学科薬用植物園の門札が白く浮び上って見える。この門を入ると芝生を敷きつめた中央道路の左右に医薬用植物区、和漢薬用植物区、民間薬用植物区、有毒植物区、香料植物区、染料植物区などの標本園が整然と区劃され、建札により名前や応用部分や用途などを知るばかりでなく、遠く内外の薬用植物等の生態を目のあたり見られることは偉観である。

また園内の北西隅には薬用樹木を植栽して風除けとし樹陰地植物は特に薬用の蔓性藤本で日除け棚を作ってその下に植栽し、水生植物はコンクリート作りの沼地に区劃されるなど学生や研究家はもとよりおよそ植物に興味ある人々には大きな魅力であろう。

唯、熱帯薬用植物だけは未だ温室がないのでわかりのフレームによってまかなわれているが何れは経済的な熱源を研究して温室を整備することになっている。

今、薬草園では樹陰地に根を胃病に用いるオウレンが花ざかりでつつましやかに花をつけているが、日当りのよい標本園ではレンギョウやカタクリの花が満開で美しく、とりわけカタクリの花は葉と共に日本の野外植物の



日大薬学科薬用植物園の一部（千葉県習志野市大久保）



薬学生の薬用植物学実習状況 その一



その二

中でももっとも美しく可憐なものであり、地下深く蔵する根からは有名なカタクリ澱粉が採れる。

やがてイカリソウの花も咲くが白色や淡紫色の花の形は礎に似て愛すべく葉は三枝九葉をととのえ葉縁に刺があり、昔から葉を催淫、強壯薬とする。欧州で有名な感冒の発汗薬カミツレヤノミトリ粉や蚊取線香の原料とされるシロバナムシヨケギク（除虫菊）も5月から6月にかけて満開で、昔から染料として有名なベニバナも初夏の薬草園のホープである。ともかく世間では漢薬ブームなどといわれている今日薬草園への見学も皆さんの健康を守る上によきお土産になるであろう。



近頃薬草の研究もいろいろと注目されているが、その一つにインド蛇木がある。インドのヒマラヤ山麓地域に野生する薬木で昔からその根を民間薬として蛇の咬傷や昆虫の刺傷に外用し、また解熱や鎮静薬として煎じて用いたが近年根から鎮静、催眠作用がある他、血圧を降下する作用があることが判り、つづいて有効成分レゼルピンが発見され、今や世界的に高血圧症や不眠症の新薬として用いられるようになったことは注目に値する。

わが国でも年間凡そ2億円に達する輸入を見ているがわが薬草園でも昨夏はインド蛇木に花が咲いたのである
またエジプトの民間薬として古くから知られるアンミはセリ科の植物でこの果実を腎臓結石や膀胱結石を除くに用いたが近年の研究によって有効成分ケリンが発見され冠状動脈拡張作用があり狭心症の治療薬として治療界の注目をひいている。

今や世界的にも死亡率の第一位を占める血管病、とりわけ高血圧症や狭心症に対してこのような薬草から新薬が発見されていることは洵に興味深いことである。

日本にも昔から伝わる漢方薬の中に多数の優れた薬があるからこれを現代の治療界に活用するためには薬学的や医学的な研究が急務とされる。

また近頃の生薬市場には海外からの輸入が困難な事情もあつてか、生薬に品不足のものが少くない。これらは早急に増産対策を計るべきで薬草栽培の研究も大切な問題である。

わが日本大学薬草園はこのような見地からも薬草研究に精進をつづけているので切に皆さんのご観覧を希望し御支援をお願いする次第である。

(1960. 3. 25 稿)